

(別紙様式06-2)

異分野研究データの可視化・検索向上を目指したメタデータ変換と
機関リポジトリへの登録の実践

Metadata conversion and registration in institutional repositories to
improve the visibility and availability of interdisciplinary research data

新堀淳樹、名古屋大学・宇宙地球環境研究所

[研究集会の背景と目的]

宇宙地球環境科学と歴史学・考古学を融合する超学際分野を創成し、新しい融合研究ネットワークの形成を目指す新規プロジェクトが名古屋大学宇宙地球環境研究所を中核拠点として開始された。本プロジェクトでは、文理融合型のデータベース・データ検索システムを構築・開発し、それを用いた学際型の研究を推進することが求められている。本研究集会では、異分野の研究データの可視化・検索向上を目指したメタデータデータベースの構築、共通メタデータへの変換手法、機関リポジトリへの登録スキームの確立についての検討を行い、超学際プロジェクトへの適用可能性について議論する。

[研究集会の実施成果]

9月16日(火)～19日(金)電気通信大学アライアンスセンター100周年記念ホールで行われた合同研究集会の中で学際ハブ研究集会「異分野研究データの機関リポジトリ登録の実践」を集会第3日目に開催した。本研究集会では、学際ハブ TranSEHA の取組、他機関における異分野データアーカイブの取組、及び学際ハブ TranSEHA での主な研究事例に関する3つのパートに分けてプログラムを校正した。

以下に各パートで実施された講演内容について述べる。

1. 学際ハブ TranSEHA の取組の紹介

本研究集会において学際ハブの文理融合データベース研究開発グループメンバーを連名として統合データサイエンスセンターの三好由純教授が「異分野研究メタデータ登録の課題：超学際ネットワーク TranSEHA における取組から」というタイトルで学際ハブ TranSEHA の取組の紹介と今後の計画についての講演を行った。TranSEHA では、人文系から地球科学に至る幅の広い異分野データを取り扱うため、それらのデータをアーカイブするためのメタデータデータベース構築やメタデータの作成に生成AIを用いるといった将来計画の報告がなされた、本合同研究集会は、他に「STE 現象報告会」、「MTI 研究集会」「超小型衛星を利用した超高層大気研究の将来ミッションの検討」「太陽地球系物理学分野のデータ解析手法、ツールの理解と応用」の4つ太陽地球物理学分野の研究集会からなるため、異なる分野の研究を実施している多くの研究者や学生に学際ハブ TranSEHA の取組について周知することができた。

2. 他機関における異分野データアーカイブの取組の紹介

学際ハブの文理融合データベース研究開発グループが行っている異分野データベース作成とデータ検索システムの開発に関連した他機関における研究データマネジメントや科学成果創出に向けたデータ利活用について、2件の招待講演がありました。各講演内容は、大阪大学の甲斐尚人氏による「オープンサイエンス時代における研究データマネジメント」と国立環境研究所の白井知子氏による「国立環境研究所(NIES)における異分野研究データ利活用に向けた取り組み」でした。質疑応答では、異分野データベースの作成やデータ解析システムの開発のポイント、オープンサイエンスに向けた機関リポジトリ登録の有効性についての議論が活発に行われた。

3. 学際ハブ TranSEHA での主な研究事例の紹介

超学際ネットワーク形成推進室の三宅美沙准教授による「極端太陽イベントと超高精度年代測定」と早川尚志助教による「1956年2月の激甚太陽嵐：同時代の観測記録の現状，調査，比較検討」というタイトルで、現在、学際ハブで進めている太陽・地球の激甚イベントに関する調査、発掘と総合解析による最新の研究成果についての招待講演がありました。質疑応答では、過去のデータのレスキュー方法や抽出したデータの精度などの議論が活発に行われた。

[研究集会の実施形式、参加者等]

本研究集会は、現地開催に加えてオンラインからの参加を可能にしたハイブリッド形式で実施しましたので、現地に来ることができなかった多くの研究者や学生にも研究集会の内容を共有することができました。実際に本研究集会が開催された9月18日の参加者は、現地：81名、オンライン：28名（計：109名）であった。